

# 新年の政治はどうなる

政治評論家 森田実  
もり た みのる

- \*自民は「本命石原、対抗石破」
- \*ほとんど全部が生き残れない
- \*政治家が変わってしまった
- \*頼りは「長老知恵者」輿石東のみ
- \*選挙制度改革をやったツケ
- \*「生活保護で生きていきます」
- \*人の命を守れない民主党政権
- \*過半数を取れる第一党はない
- \*情がなく魂のない政治家ばかり
- \*無政府状態に等しい



**浅野** それでは開会いたします。（拍手）今日も森田さんは関西でのテレビ出演があるというところで少し早く始めさせていただきます、1時40分頃には終わらせていただきます。

去年も暮れにおいていただきましたが、講演録を読み直してみますと、非常に的確な民主批評を展開されていて事態はほとんど予想どおり展開しています。ただ一点だけ、前原さんが総理大臣になる可能性もないとはいえないとおっしゃっていて、これは意外なダークホースが出てきてしまいました。今、前原さんも厳しい状況かもしれないけれども、いずれまた出てこられるかもしれませんね。

**森田 実** 今日は『独立国日本のために』というご著書をお読みしております。昨日、取次へ入ったばかりで、今日は書店にならぶかどうかという出来

りで、今日は書店にならぶかどうかという出来立てですけれども、「これは私の遺書である」と書いてあります。（笑）これが最後の著書になるとも思えませんけれども、ぜひお読みください。それでは森田さん、よろしくお願います。（拍手）

**森田** よろしくお願いたします。私の都合で少し開始時間を早くしていただきましたこと、お詫びいたします。

実は「遺書」というのは出版社のほうで考えたものでありまして、（笑）私にはこの著書が最後などという気持ちはさらさらなくて、（笑）2月頃また次の本が出ますし、この一年のうちにもう二、三冊は書く予定になっておりますので、遺書第一号というような感じの本になった

と思います。(笑)今日は出版元の人がこちらに店を出しましてたいへん失礼しておりますが、よろしく願います。出版元の名前がKKベストセラーズでして、本当にそうなることを密かに狙っております。(笑)

### 自民は「本命石原、対抗石破」

新年の政治はどうなるかというのは、実は本当に難しいテーマです。今までも「来年はどう思うか」というテーマでの講演を何回かやってまいりまして、もちろんなかなか難しいなと思いつながらやってきましたが、2012年は特に難しいような気がします。と言いますのは、かなりの地位の幹部に会いましたも「政治がわからない」と言っているのです。こちらが今まで

取材をしてきた幹部も「わからない」と言います。09年の政権交代前には考えられなかったことです。わからなくてもわかったような顔をしていた人まで、わからないというようになりましたから。(笑)今は、政権の中枢部にいる人自身がわからないと言っています。

「この世の中でいちばん難しいことは自分自身を知ることである」と言ったのは、古代ギリシャの哲学者タレスです。そのとおりでと思うのですが、政界のことも政治家自身がわからない。それほど情報というものがあるようではないのです。

先日、知事や政令指定都市の首長の集まりに呼ばれて懇談しました。絶えず総理大臣などにも接触している人たちですが、彼らも「わから

ない」と言っていました。どういうように官邸が動いているのか、どういうように首相が考えて行動しているのか、教えてくれないかということです。彼らから逆に質問を受けたのです。率直に言って政府内部がかなりぼやけているというのが現状だろうと思います。

ただはつきりしていることはあります。新年とともに衆議院総選挙が最大の政治テーマになるということです。幹部だけではなくて、すべての衆議院議員が選挙のことばかり考えるようになると思います。いかに生き残るかということとです。

民主党側には二つの見方があると言っていると思います。一つは次の選挙で勝って政権を守り抜くことは至難であると。いくら鈍感な議員

でも厳しいことはわかっているわけです。(笑)その厳しいのを乗り越えて、もしも第一党になり政権を守り抜くことができたら自分、自民党は立ち直れないと、民主党議員のほとんどは考えています。だから、この困難を乗り越えられれば…と、たくましい物の見方をする人が3、4人はいいます。民主党衆議院議員約300名のうち1%程度はいます。(笑)

その約1%の諸君と話し合ってみますと、こういう理屈です。自民党は今、谷垣総裁ですが、9月までに選挙が行われない場合には総裁が交代になることはほとんど間違いのない。解散に追い込めなかつたわけですから。そうすると、次には石原伸晃幹事長、または石破茂前政調会長のどちらかが出てくるだろうと。ほかにも候補

者は出てくると思いますが、この二人が「本命石原、対抗石破」というような感じですよ。

石原幹事長が総裁になれば、民主党はかなわない。なぜかといいますとテレビ局出身ですから、いわば「テレビ党」の大幹部です。しかも東京のテレビ局を抑えているのは親父の石原慎太郎都知事です。石原知事の影響力は強い。テレビは認可事業です。政府だけではありません、東京都も怖い存在です。石原都知事はテレビからは絶対に叩かれませんか。

テレビを見る人は国民の半分ぐらいに減ってきました。残り半分はテレビを見ずにインターネットか口コミで情報をとっている。あるいは情報にまったく興味がない。それでもまだテレビがいちばん影響力を持っています。

政治については、東京のテレビ局はほとんど同じように行動します。したがって、誰かを応援する、誰かを応援しないというのをテレビ局が一致してやりましたら、応援されないほうはかたがたありません。応援するというのは必ずしも褒めなくてもいいのです。いっさいけなさないというのでよくて、(笑) 相手だけをけなし続ければいいのです。

私も何十年間もテレビに出演していて、テレビのプロデューサーやディレクターと親しくなっていますが、番組をつくるときに彼らは、カメラマンが撮ってきたフィルムを見ながら、どこを放送するか自分で決めるのです。好意を持っている政治家の場合にはいい表情を放送します。(笑) 好意を持たない政治家なら、最悪の

表情をビックアップして放送し続ければいいのです。

これは映画の手法です。善玉になる、二枚目の場合には、いい表情を撮って出すのです。実際には二枚目のほうが根性の悪い人が多く、悪役に根性のいい人、好人物が多いと言われますが、悪役の人が好人物の表情をしたところは全部カットです。(笑) ものすごい悪い表情をしたときだけ入れる。そういう手法が政治家についても確立されているのです。悪い表情を狙われた政治家はひとまりもないのです。

ともかくそういう形でテレビ局員の深層心理が発揮されるのですが、これは普通の人にはわからないけれども、政治家は知っています。石原総裁になったら民主党がかなわないと考える

のは当然です。しかも、彼はあるテレビ局の出身者、仲間です。そこにもう一人、親父というテレビ界の事実上の大御所がいるのですから、とても太刀打ちできない。

谷垣総裁のうちなら討ち取れるかもしれない。谷垣という人は気が利かない政治家です。目立たない、冴えない人です。(笑) 谷垣総裁のうちに勝負して再び第一党になれば、自民党は当分立ち直れないであろう。だから9月までの間に選挙をやろうと考える人もいるのです。しかも自民党は年齢がかなり高い人が多い。夏に選挙をやれば、小沢チルドレンはじめ若い人の多い民主党のほうが有利だとの見方もあります。ただし、大多数は弱気です。

国会は予算が成立した直後から争いになりま

す。野田内閣がそこで窮地に陥る場合には断固

として切り返すべしということです。そういうような考え方を少数の人は持っています。

### ほとんど全部が生き残れない

ですが、民主党議員の大半は怖くて仕方がないと思います。民主党の議席は半分になるという予測だからです。今約3000人いるのが150人になる。この場合、150人の人が生き残れるかと思っているわけではないのです。これは、ほとんど全部が生き残れないと思う数字なのです。どうせ死ぬなら一日でも長く生きたいと考えるのが人情です。(笑) これは共通の心理ですから、総選挙は任期満了に限りなく近づけたという気持ちは非常に強い。そういう点での

綱引きをやっているのです。

野田佳彦総理に取材したときには、勝負する気が感じられました。その気持が変わっていないければ勝負をすると思います。総理大臣になったときにいちばんやりたいことの一つに、同僚議員の首を一発ではねるということがあります。(笑) その快感を味わいたい。これは深層心理の中に燃えています。

ただ、そのとおりいけるかどうかはわかりません。なぜかといいますと、野田さんという人は時々元気がなくなる人です。事実、野田首相は2011年の9月には臍抜けのようになっていました。9月の初めに何が起こったかという、オバマ大統領と15分だけ会い、そこでなじられたのです。

2007年の7月末に参議院選挙があつて自民党が大敗北した1ヵ月後の9月初めにオーストラリアでAPECがあつたとき、ブッシュ前大統領も、当時の安倍晋三総理をそうとうなじつたようです。それで彼は下痢して、そのショックで引退に追い込まれたとの見方がありました。私もそう思っています。

ただ、ホワイトハウスはアメリカの報道機関に、報道しないよう全部ストップをかけた。アメリカは言論の自由の国だと言っています。アメリカがかかるとすぐ従う程度の言論の自由です。それで報道は止められたので、その問題は伏せられたのです。

この時、オーストラリアにいた記者から私に電話がかかってきて、この件についてのコメン

トを求められました。しかし私の談話をまとめた記事は掲載を止められたそうです。その報道機関のトップから記事にするなという指令が出たということです。ホワイトハウスの意思であるということでした。

ともかく安倍総理も怒鳴られたそうですが、ブッシュのほうが少し温かい怒鳴り方だったようです。オバマのほうはものすごく冷たかったらしい。たった15分ですけれども、それで野田首相はふらふらになったようです。(笑) 今の日本の政治家は総じて気が弱いです。政治家になつてはいけなほど気が弱い人が多いのは困ったことです。

現実の政治においては首相の気力は大きな要素です。気力があればピンチになったときに解

散で切り返すということはありません。私は6対4ぐらいではないかと思っています。つまり、相手が谷垣さんのときに選挙をやりたいと。谷垣さんはなめられているのです。一般の議員大衆の意向は一日でも長く生き延びたいということであることは間違いありませんから、その綱引きだと思っています。

今、野田内閣は社会保障と税の一体改革に取り組んでいます。総選挙のことを考えて「景気条項」その他の前提条件を入れると私は見えています。もちろん増税派は「景気条項」などの条件を入れたくない。財務省もそんなのを入れたいと止められてしまうので絶対にノーです。「景気条項」というのはすでに今の法律の付則に書かれていることで、景気が良くなつてから

を読まない人が増えています。政府も一般大衆から孤立しています。国民と政府との距離はどんどん広がっています。政治そのもの、国会そのものが国民から浮いてきています。新聞社も一緒に浮いてきています。これが今の時代の特徴です。

### 政治家が変わってしまった

マスコミを含む政界が国民から遊離してきている。そして、中央の政界と離れて一般国民が動き出している。私は毎日のように全国を回っています。東京あるいは中央政府を頼りにしても仕方がない。頼りにしても裏切られるだけです。政府の力を借りなければほとんど何もできないことはわかっているけれども、自分の

増税するということです。ですから、これを付則に入れ込むかどうかにも綱引きです。

TPPも、どっちが有利かと。結局のところ、先延ばしの口実としてもし使われるとすれば、2012年11月のアメリカ大統領選挙を見なければ何とも言えない。もし現大統領が敗れば、TPPはアメリカでも挫折するかもしれない。そうなった場合のことを考えれば、大統領選挙まで延ばしてしまおうということになり、TPPを棚上げしようという考え方にもなる。12年11月まで延ばすことで総選挙と絡めないことにしようという考え方です。

TPPについてマスコミは受け入れるべしという立場です。ただし、マスコミには一時ほどの影響力はありません。テレビを見ない、新聞道を進むしかないのです」と言い切る市長や町長が増えています。

私は毎週、関西へ行つて仕事をしていきますが、関西の人々は率直に言つて東京をほとんど信用しなくなっています。だから「われわれのリーダーは橋下だ」と関西の人々が言つて橋下徹大阪市長がますます英雄になっているのは、東京への不信の裏返しでもあるのです。

それから、これは地方から見るとたいへん大事なことです。景気を良くするための対策をとろうという意見は民主党にほとんどありません。民主党は経済のことをほとんど何にも知りません。驚くべきことです。

昔、テレビの番組で一緒だったこともあり海江田万里さんと親しいのですが、海江田万里さ



んがポスト菅の代表選に立った時に彼のグループをまとめていたのが辻恵さんという議員です。彼は弁護士で、おそらくこれほど腕力のある人間は今の民主党にはいないのではないのでしょうか。小沢一郎も腕力があると言われていますが、小沢には腕力を使う場所がもうありません。代表選に向けて、辻恵さんが海江田さんを擁立して約30名を集めて、週に一、二度、会議をしていました。

特に半年前の6月2日に菅直人が鳩山をだまして居座って以来、毎晩のように民主党の各グループの会合が開かれました。海江田・辻グループは民主党内のグループ会議の一つですが、海江田グループの会が始まるのが8時とか9時なものですから、ほかのグループ会議に出た人

せんでした。

こうした体験を通じて、民主党の政治家の生息、実態をじっくり観察しました。率直な感想を言いますと、政治家になってはいけない人たちが政治家になっていると感じました。(笑) 人のために働こうという気持ちを持っている人はあまりいなくて、自分のために政治を利用しようというタイプの人間ばかりのように見えます。政界に恐ろしいほどの退廃が起きていることを、私は自分の肉体を犠牲にしながら取材したので。(笑)

以前の中選挙区時代の政治家と比べると、小選挙区時代の政治家は努力が足りないと思います。中選挙区だと、怪文書は飛び交う、個人攻撃もある。個人の争いですから、そういうこと

間が集まってくる。そこで各派の会議の報告がされます。

根回し役の辻恵はかなり優秀です。元東大共闘の闘士です。元共闘の闘士にはろくな人間はいないですが、(笑) それだけパワーがあります。ここにおいでになる方ではなくて政界のことですよ。(笑) しかし、彼はその中で根性のある唯一の人間のような男です。

この会議が遅く始まるのは、すべてのグループの会議の報告をしてもらうためです。海江田・辻グループのメンバーは、毎晩八つぐらいやっている全部の会合に出ています。私も講師と呼ばれた時に聞きました。酒を飲みすぎた結果、9月から10月にかけて病氣しました。危機的な状況になり、しばらく休まざるをえま

が起こる。それに耐え抜いて心臓にも毛が生える、面の皮は何重にも厚くなる。これで人間を鍛えているのです。政治家らしくなってくる。中には悪い方向にそれを利用する人間もいますが、弱々しい政治家に比べればはるかにましではないでしょうか。

小選挙区と比例制という選挙制度には、個人の審判が基本的にありません。大幹部に対しごまをする者だけが跋扈するのです。「小沢さんはすばらしい」と言い、金持ちであれば小沢さんにカネを持っていくと、候補者になれる。民主党の場合には最近まで小沢さんが選挙を取り仕切っていましたから、小沢さんが「純情なやつだ」「かわいいやつだ」と思えば候補者になれる。

自民党のほうも数人の大幹部が反対しなければ候補者になれる。候補者になるときに厳しい試験がないうえに、「風」が吹けばその「風」で、簡単に当選できる。小泉さんのときは小泉の「風」で、この前の総選挙は政権交代の「風」で選挙結果が決まりました。「風」だけで努力しなくても国会議員になれるのです。

### 頼りは「長老知恵者」輿石東のみ

今はテレビ局も新しい社屋になりました。出演者が行く個室があります。しかし不便です。昔、古い社屋のときは大部屋があって、タレントや俳優などいろいろな人が来ていました。ジャリタレントのようなのも、大物タレントもいました。民主党の国会議員はその頃のタレント

の空気とほとんど同じです。つい先日、自民党の大幹部に会った時、この話をして「自民党はどうか？」と言ったら、「自民党も同じだ」と言っていました。

小選挙区になってから数回、総選挙をやっていますが、軽い人間がどんどん出るようになりました。90年代の中頃までの中選挙区でやってきた政治家と文化が違う。中選挙区で90年代の中頃までに国会に出てきた政治家はそれなりに一般大衆を大事にします。国民を大事にしない政治家は淘汰されてしまいますから。地元に行けば一生懸命やるし、被災地に入れば一生懸命やるのです。

ところが小選挙区だけの当選者は被災地では観光客とほとんど同じです。ケータイのカメラ背景になっているのです。私が見るところ深刻だと思うのは、民主党のほうはどんどん追い詰められて、頼りはただ一人の長老知恵者の輿石東こいしあずま幹事長だけです。山梨県で前回の参議院選挙で何百票かの差でやっ

て被災地の写真を撮って、インターネットで自分の選挙区の人たちに被災地に行ってきましたと報告するだけの政治家が少なくないのです。何かするべきことがあってもしない政治家が増えました。ともかく政治家が変わってしまっただけということが、今の非常に深刻な状況をつくっています。

55年前から議論し、十数年前から始めた小選挙区選挙は、率直に言って大失敗です。小選挙区比例代表並立制というのは、ほんの1%の指導的体質を持った人間と、そして99%のジャリタレントのごとき政治家による政治にしてしまいました。投票ロボットのようないかなる政治家ばかりになったと思うほどです。こういう状況になっていることが政治の停滞の大きな

長が亡くなったので、今や参議院のただ一人のドンです。その輿石氏が幹事長になりました。民主党を完全に切り切っています。そして野田首相もこれに頼り切りです。藤村官房長官はまったくのエスマンです。執行部もみんな輿石東のイエスマンといえはイエスマンです。

輿石東は日教組の出身で、山梨県教組の委員長だった人です。日教組の人たちは日教組のこ

とだけしか考えてないタイプの幹部が多く、労働運動全体のこととか、国民全体のことはあまり考えないのです。私も長い間、日教組の人たちと付き合いましたが、共通しているのは、日教組幹部はみな日教組のことだけしか考えていないということですよ。

興石氏は、今は民主党のことだけしか考えていないと、私は思います。民主党をまとめていけばなんとかなると考えているのではないのでしょうか。衆議院は多数です。参議院も07年のままであれば多数でしたが、菅直人が増税を言ったものですから10年夏の参院選で負けた。今、過半数を握っておりませんので、野党すべてがまとまれば問責決議できるようになりました。「ねじれ」で思うようにならなくなっているけ

まる風向きだったのです。しかし、谷垣総裁が地方遊説で「15年か20年でいい」と言っていました。谷垣総裁って、率直に言って政治音痴ですわ。(笑)

それで「待ってました」と興石幹事長が出てきて、自民党への裏工作をやりました。その結果、25年で手を打った。興石氏はそういう処理はうまい。第3次補正予算は興石氏の裏工作でまとまったのです。しかし政策理念というのはほとんどない。それでも唯一の知恵者を幹事長に据えたことで、民主党は分裂せずに済んでいるのです。

森田 実  
私は政界の人たちにならずと言ってきました。行き詰まりになって困ったときは、役に立つのは知恵ある長老ですよ。そして、気取って

れども、民主党をまとめさえすれば民主党は安泰です。興石東幹事長は党のまとめ役をやっているのです。

興石氏は、駆け引きはうまいようで、争い事やもめ事の処理もうまいらしい。労働組合幹部というのは大体そういう体質を持っています。しかしながら政策はまったくわからない人のようです。(笑) 政策はわからなくても興石氏は党内をまとめています。

今度第3次補正予算を組むに当たっての最大の問題は、財源問題、特に国債の償還期限の問題でした。自民党の中にはいろいろな意見がありました。自民党の中でいちばん強硬な意見は、60年で償還する建設国債で処理すべきだという意見でした。そして自民党内はこの方向でま

「若い人間に任せる」とか「世代交代だ」とか言っている時には大体悪いことが起こりますよ、と。

1930年代の初めに軍部が日本の政治の主導権をとりながら、軍部の長老たちは気取って青年将校に任せていたものですから、暴走して五・一五事件だとか二・二六事件だとかを起したのです。最後に陸軍を抑えて終戦工作をやるときには、動いたのは長老でした。

終戦時の首相は鈴木貫太郎でした。終戦工作をした岡田啓介は元首相でした。岡田は二・二六事件のとき、首相官邸の布団部屋の押入れに隠れて生き延びたということではよくそに言われました。それから注目されていなかったのですが、裏では動いていました。それで終戦をす



ることができたのです。

## 選挙制度改革をやったツケ

戦後第一回目の選挙が1946年に行われ、鳩山一郎の自由党が第一党になって政権を取るということになった前夜に、自由党幹部が一斉に追放になりました。この追放が行われたときにどうするか。人がいない。誰を据えても追放の危険性があるからです。

結局、大長老が動きました。吉田茂だったら追放されまいだろうから、吉田茂を使ったらどうかという知恵を出した。現行憲法では国会議員でなければ首相になれませんが、旧憲法では議席がなくても首相になることができたのです。この時、三木武吉も動いて、吉田を引っ張り出

しました。

しかし自由党の中がうまくまとまらないものですから、まず吉田茂を入党させて、自由党の総務会の一メンバーにしたのです。総務会の一メンバーとして内閣総理大臣に選んで、内閣総理大臣になってから党総裁にしようということにしたのです。吉田茂が党総裁になったのは首相になった後です。

こういうような知恵は年寄りでなければ出てきません。若い人には無理です。それから、1954年に吉田内閣が総辞職した後の大混乱のときも、結局、緒方竹虎とか、三木武吉とか、長老が動いて政界再編して、政界をまとめました。

ければダメだということを私は言い続けてきました。民主党は困り果てて興石東を引っ張り出してやっと分裂を止めましたが、ただ、政策のわからない興石氏の力で政治全体がうまくいく保証はまったくありません。ただ駆け引きのうまさだけでやっていくといっても限度があります。それでも2012年の3月頃まではもつてしよう。補正予算と通常予算がありますから、補正予算を出せば、野党は国会審議を拒否はしないはずです。

通常国会には第4次補正予算がまず出てきます。震災復興のための補正予算であれば野党は協力します。第3次を出したときには、「第4次はありません」と野田総理は言っていたのです。ところが4次を出してきて、4次が通った

らまた新年度補正を出す。復興の補正なら野党は協力します。興石幹事長でしたら、何度でも補正を出すというようなこともやりかねないと思います。ですが、4月からは与野党対決の気運は高まるでしょう。大勝負になってくる可能性があります。

全国を回ってみますと、わが日本国の政治は寒々しいものです。どこも政治をまったく信用していません。政治は国民からまったく浮いてしまっている。ですから、私は解散・総選挙をする以外に良くする方法はないのではないかと思っています。小選挙区比例代表並立制の選挙では人はあまり替わりません。カッコいい人間、テレビタレントのような人間が増えるばかりです。

今のままでは選挙をしても状況は変わりません。選挙制度を変えるのは至難ですが、一人ひとりが全人格の審判を受けて選ばれる中選挙区にでもしない限りは、まともな政治家は出てこないと思います。しかしこれには長い年月がかかるのではないのでしょうか。

リクルート事件のときに、選挙制度改革という毒薬を出せばそっちへ関心が行くであろうという策略で小選挙区制の導入を打ち出して、その方向に持って行って選挙制度改革をやったのです。この安易な政治のやり方のツケが今、日本国民の上に来ているのです。

この選挙制度を改革する力は今の政治家にはありません。民主党内には、中選挙区制のほうがいいという意見の人は数人いますが、やる気が

「事だ」という意味は福祉が最優先の課題だという意味です。

しかし私は、最優先の課題は、みんなが食っていける社会をつくることではないのかと。食えなくなっている状況を食べるようにすることが大事ではないのか。職のない人に職を与え、職があっても年間100万円程度しか稼げない人が、もう何百万人と実際にいるのです。これを直さない限りは社会は成り立たないのではないですかというのですが、政治家はただ福祉をやればよいと考えている。

私の言いたいのは、労働することの大切さです、労働によって自らの生きがいとモラルを持って、そして自分と家族の生活を支え社会とながっていくことができるのです。この労働か

はないでしょう。自民党には何十人かいますけれども、それでもできないのではないのでしょうか。

というのは、小選挙区比例代表並立制というのは第一党、第二党を過保護にする制度ですから、過保護に慣れきった第一党、第二党が自分たちの首を絞めるようなことに多数が同意することは難しい。これが現状です。しかしこの課題をどう乗り越えるかは大事な問題です。

### 「生活保護で生きていきます」

もう一つ、政治家と議論していて、困ったなと思うことがあります。ほとんどの政治家が「福祉が大事だ」と言います。「福祉が大事だ」ということには誰も反対しません。「福祉が大

から疎外された人たちがどんどん増えているのです。深刻な失業問題に手を打っていない資本主義国は日本だけではないでしょうか。こう言ってもわからないのです。1930年代には石橋湛山とか、高橋亀吉とか、高橋是清とかは、ケインズよりも早く「失業問題は大事だ」と言ったのですが、これを話しても最近の政治家は知らないのです。

最近高橋是清は新聞小説にもなっていて少し有名になっていますし、石橋湛山は総理大臣をやったので名前くらい知っているにしても、高橋亀吉のことは知らない人が多い。ケインズさえ知らない人がいます。マルクスと言ったら、「それ、誰ですか。サッカーの選手ですか」なんて言う政治家がいたりする。(笑)

ともかく政策論争も知らず、そして失業というものがやがて社会を壊し、戦争への道を開くことも知らない政治家が少なくないのは困ったことです。今でも戦争の危険性はあります。イランをめぐる対立だってある。そういうものについて危機感を抱かない国会議員が少なくないのです。

今という現象が起こっているかというのと、食えない人たちが何百万人にもなってきたています。生活していけない人が増えているのです。生活保護者以下の生活しかできない人が何百万人もいます。しかし、収入がある限り有利な生活保護の申請ができない。そこで生活保護を申請するために働くのをやめて、生活保護申請資格を取れば120万〜130万円にはなる。

んとなりました。生活保護で生きていきたいという人が増加する傾向が進む市の財政は破綻すると言っていました。

### 人の命を守れない民主党政権

民主党政権の中心部にいる人間におかしいのではないのかと言っても、「福祉が大事です」と言う。戦後すぐに石橋湛山が吉田内閣の大蔵大臣になりました。石橋蔵相は、外地から復員した多くの人々が失業していたが、この人たちが政府で雇おう、国有鉄道で雇おう、電車で雇おうと言って、地方自治体にも頼んで雇った。賃金を払ってみんなが食えるようにしない限りは日本の復興はできないと考えて、日本が10年にして復興できる素地をつくりました。

そつちのほうがより良い生活ができるということで申請者が殺到している。生活保護で生きていこうと考える人が増えている。

最近、ある大学の先生の手記を読んでいます。卒業する学生に今後どうして生きるかと聞いたところ、「生活保護で生きていきます」と答えた学生が各クラスに何人かずついたそうです。(笑)

就職して働いて社会に貢献し、自分の家族も自分の労働でもって養っていく、自分自身も養っていく、という意識は大半の人はまだ持っているでしょうが、学校を卒業したら、生活保護を申請して、ずっと生活保護で生きていきますというのは今まではいみませんでした。四国の市長会で講演したときにその話をしたら満場しー

石橋湛山は偉大な政治家でしたが、アメリカ占領軍と激しくやり合ったため、占領軍からいらまれて、不当な公職追放にあっています。その後、占領軍は公務員が増えすぎた、首切れ、と言ってきました。三鷹事件、松川事件が起こった頃です。

石橋湛山は、国民みんなを食わせようとした。このため仕事をつくった。病院をつくる、道路をつくる。公共事業を起こして、ニコヨン、240円の日当を払う。こういうことをやって初めて日本は戦後復興ができたのです。政治家の集いで「誰かこういうことを知っている人はいないのか」と言っても、誰も知りません。そんな大事なことも知らないのです。

政府の任務は食えない人は食わせるというこ

とです。食えない人が極端に増えることが社会の最大の危機です。しかしこういう考え方がない。自民党でも小泉さんの改革以来、日本の発展は改革によって行うべきだと。その改革の中には、公共事業をなくすことも一つだと。公共事業はやってはいけないのだと言ってきた。このため、社会資本はどんどん劣化しました。今、深刻な状態になっています。

最近、政府が補助金を出すことになり、学校の耐震工事が進められています。ですが、小学校も、中学校も、耐震工事は教室はできていないのです。どこの耐震工事をやっているかという、体育館だけです。つまり、逃げ場所、避難場所としての体育館の耐震工事をやっています。いきなり大地震が来て教室が崩れたら、多くの

立たなくなつてから、それをしなくなりました。木の根っこに太陽が行かないため、山が弱くなつて崩れやすくなりました。

最近では崩れの状態がさらに悪化しています。そして崩れたところにセメント補強をするものですから、日本の美しい自然は傷ついています。それだけでなく最近はいかに山の真ん中から崩れるようになりました。これはいかにわが日本の国土が劣化し、脆弱化しているかということの一例です。

社会も劣化しています。今までは鳥取や島根に大雪が降れば建設業者が重機を持って雪降ろしをして処理していました。ところが、建設業者が次々と潰れました。なんとか経営を続けているところもカネがなくなつて大きな重機は処

少年少女が犠牲になるおそれは依然としてあるのです。

11年9月の台風12号の豪雨により紀伊半島で深層崩壊が起きました。現場へ行ってきました。山が真ん中から崩れている。結局のところ長い間の積み重ねの結果です。日本が軍国主義になつてから、森を伐採して丸坊主にした後、早く育つ杉と檜だけを植えた。杉と檜は根が浅いのです。これを繰り返して山は弱まっていたのです。その後、1960年頃の木材輸入の自由化で日本の林業は崩れました。山に人が入らなくなりました。

昔は、日本列島はどんな深いところにも人が入っていました。地面に太陽が当たるように間伐をして、山を守っていたのです。林業が成り

分している。結局、伝統的にずっと長い間やってきた建設業者による雪降ろしができなくなりました。市役所も人を減らしていますから処理能力がない。

そこで自分でやり始めた。慣れない仕事ですから、雪の中に落ちてお亡くなりになる人も少なくない。これが三ヶタの数になりました。毎年、100人を超えているのです。こんなことは例がないのです。いかに社会が弱くなっているか、人の命を守れないようになっていくか、です。

最近、私は自民党の幹部に言いました。「自民党はある時期までは景気を良くしてくれる自民党だということで中小企業者から尊敬されていた。しかし小泉改革以来、そういう主張を取り

下げて何をやっているのか。景気を良くするのは自民党の責任だ、と言うべきではないか。どれだけ国民が困っているのか知っているのですか」と。

失業を減らし、行く行くはみんなが職について食べられるようになる。さらに、景気を良くして、あしたはもう少し賃金も良くなる、会社も良くなる、とみんなが希望を持つことができ。穏やかな物価上昇なら、個人の借金も企業への借金も国家の借金も、その分だけ減っていくのです。急激な物価上昇はとんでもないことです。3%くらいの物価上昇は、賃金が上がり、経済成長があれば許容できるでしょう。

そういう経済成長の発想法はできないのか。しかし、現実はどうか。多くの政治家は「物価

はちよつとでも上がったらいけないんじゃないでしょうか」と、カマトトのようなことを言っているのです。(笑)

困ったことに「物価が下落するのは善で、物価が少しでも上がったら悪だ」と言い切るような極端な考えの持ち主が、財政、金融をやっている中にいます。しかし一方的に物価が下がり続けるほど危険なことではないのです。貨幣と物のバランスが崩れているわけですから、これは貨幣経済の危機です。そのぐらいのことがわからない人物が政治の中枢において政治を行っている。これはなんとかしなければいけません。

なるべく早く解散・総選挙を行う必要があります。ただし、次の解散・総選挙までには選挙

制度を変えなければなりません。今の選挙制度では、同じような主張を持つ第一党と第二党がどこで争っているかという点、マスコミの土俵の上で競い合っています。しかも最近では土俵のマスコミのほうが強くなってしまう。

### 過半数を取れる第一党はない

小選挙区制で政権交代ができるようになりましたが、どちらが政権をとるかを決めるのはマスコミです。マスコミの実力あるプロデューサー、ディレクターが何を言っているかという点、「政権はわれわれが決めているんだ」と。「小泉を勝たせたのはわれわれだ。鳩山や小沢を勝たせたのもわれわれなんだ。マスコミを敵に回し

たらどこの政党、政治家だって生き残ることはできない」と。これは酔っ払わなくても言い切っています。(笑)

わが日本の政治の実権はテレビ局に握られています。テレビ局が団結している限り、彼らは実権者です。政権の行方を決めます。私は何十年、マスコミの中で暮らしてきましたが、この世の中でいちばん始末の悪い連中ではないかと思えます。10000人に1人、800人に1人の入社試験で入ってきます。超学歴エリートです。したがって、ものすごいエリート意識の持ち主です。傲慢そのものです。それでいて能力が低い。(笑)

低能力で傲慢、しかしエリート意識は無限度です。これは最低の人間ではないでしょうか。忙



しすぎて勉強もしていない。「本のない部屋は、魂のない肉体のようなものだ」と言われますが、テレビ局には書斎はほとんどないです。(笑) 新聞社にはあります。

ここで私の総選挙予測を申し上げます。9月の末頃だったと思うんですが、『週刊朝日』でもって私が予測を出しました。伊藤惇夫さんという政治アナリストと二人招かれて対談をしたのですが、伊藤さんという方は大物アナリストらしいですね。態度も大きい。「私は選挙予測のようなものはやりませんから」と言っています。選挙予測は恥かくことですから。予測というのはほとんど外れるものです。(笑)

時には政治家個人からも抗議が来ます。私も執拗にやられたことがあります。「この僕が無

印とは何ですか！ 人権侵害だ！」と言われて、何回も電話がかかってきたことがあります。この方はしるしのつけようのない候補者でした。まともな人ではないです。そういうのに耐えながら私も、恥をかきつつ選挙予測をやってきました。(笑)

私が出した予測は「民主党190、自民党は210」。自民党は、過半数は取れないけれども第一党になれる。そうしたら朝日の記者から電話がかかりまして、「われわれの調査はもうちよつと差が小さい、民主党は195、自民党は205取る」という。5議席違うだけ。ほとんど差がない。これくらいの差はどうでもいいことです。(笑) 私は、「よきに計らえ」と言いました。ちよつと関西で仕事をしていた時でし

た。

ほとんどの予測は、民主党150、自民党は単独過半数です。私の予測はもう少し差が小さい。政党内で選挙の調査をよくやっている人は、第一党はどっちかが取るけれども、どっちも過半数を取れないという予測のようです。ただ、これはあくまで予測の話です。予測ほどあてにならないものはありません。テレビ局がA党を勝たせようと思ったら、こんな予測は吹き飛んでしまいます。

ただ、率直に言って石原伸晃氏が党総裁になったら、自民党は強いと思います。つまり、石原伸晃氏の軽さこそテレビ局が乗りやすい、担ぎやすいのですから。(笑) 石原伸晃氏こそ典型的なテレビ時代の政治家だと思えます。今は

重い人間はダメです。

今の政界は「人情、紙よりも薄い」世界です。ある時期までの政治家は情がありましたよ。世話になったとかいうものを重視していました。今は情がありません。情のない人間がほとんどになりました。世話になってもその場限り。

### 情がなく魂のない政治家ばかり

政治家は、理性とか利害だけで生きているのではないのです。情で生きている。おそらく経済界の人たちもそうでしょう。情がない人間は、一時期、成功しても尊敬されません。ですが、政治家はほとんどが情がなくなりました。民主党のリーダーたちも個人的には多少付き合いがありました。小沢さんは情がないです。

鳩山さんはちょっとばやけていますけれども、菅さんにも情はない。思うに、小沢一郎さんが政治の中心を占めるようになってから「情」が薄くなりました。小沢さんは「情」そのものを否定しましたから。

そのほか一人ひとり調べてみますと、組織の訓練というのが何にもない。組織の訓練がない人たちが今、リーダーになっていきます。自民党は、中選挙区時代にはそれぞれ後援会をつくって組織がありましたから、その経験を持っている人たちはまだ情があります。ですが、小選挙区になってそういうものを切ってしまうから情がないです。情がないというのは魂がないのと同じです。これはかなり大きい問題だと思います。

るぐらいになりました。

割り勘で会議を開いていたのでは派閥ではないですね。(笑) リーダーが「俺が持つ」ということを言えなければダメです。みんなカネに困っているのですから。しかし、その派閥が壊れてしまいました。派閥は政治家の教育機関だったのです。政治家も丁稚奉公ていぢほうこうみたいなものなのです。職人みたいなものなのです。そういうのがなくなってしまう。小沢さんは塾をやっています。情がないいわば「無情塾」です。ですから人の関係は一時的です。

新聞社の関係の人には悪いのですが、新聞社はある時期から墮落しました。つまり、先輩が先輩に「こんな原稿はダメだ」と怒鳴りつけて、先輩が先輩を教育してきたのです。こうして記

夏以降、私はかなりの頻度で政治家の集まりに呼ばれています。政治は科学ではなくて術である」というビスマルクの言葉を引用して、術を学べと説きました。忍術だとか、芸術だとか、そういう術なのだ。科学を乗り越えて事を仕上げていく、これが政治の根本だという話をしたのですが、ほとんど通じません。つまり、すべて合理主義で割り切らないとやっていけないと思込んでいます。

そこまでわが日本国の政治の現状は深刻な事態になっていくように私は日常的に感じています。そのことを批判し続けています。たとえば派閥が悪いといって、みんな派閥を解体しました。派閥は資金を集めてはダメだということで、カネがなくなりましたもので会議もやっと開け

者という職人として鍛えたのです。ところが労働組合が、教育熱心な先輩記者を「不当労働行為だ。労働組合の精神に違反する。民主主義の精神に反する」と言って問題にした。それで先輩が先輩に物を教えるのをやめてしまった。昔の新聞記者は文章一行に命を懸けていました。そういう友人がいっぱいいました。しかし、今は劣化しています。

このような極端な平等主義のために、先輩が先輩に教えるという良い風習を潰してしまった。政界も同じです。自民党もふわふわした人間が多くなりました。民主党ははじめからふわふわした人間の集団です。これを立て直すのは大変ですけれども、しかしながら政治がなければ世の中成り立ちませんので、しっかりさせないと

いけません。

震災の被災地にも私は何度も足を運び、いろいろな人から意見を聞いてきましたが、私がいちばん応えたのは、「日本には政府はないんですか」というせりふでした。「復旧・復興」と叫ぶだけでほとんど何にもやってないのです。

### 無政府状態に等しい

第1次補正、第2次補正というのは一般人にとつては関係ないようなものでした。第3次補正に対する期待が非常に強まったのはそのためでした。ともかく無政府状態に等しいことが今、わが国で起こったのです。それは外交においても、そうです。政治のあらゆる分野で生じています。これが日本社会に悪い影響を及ぼし

ているのではないのでしょうか。

私は何人かの与党の政治家に提案したことがあります。これほどの金融危機であれば日本政府は世界中を飛び回るべきではないかと。つまり、円という国際通貨を持っている日本には国際金融危機についても言う資格があるのだから、飛び回ったらかどうかと。新しい金融秩序づくりには汗をかくべきだと。

そうしたらみんなにばかにされました。国際関係は、日本は受け身でなければならぬ。アメリカに対して何か物を言ったら必ず悪いことが起こる。成敗される。特にアメリカに対してはすべて受け身でなければならぬと。これが与党政治家みんなの反応でした。必要なことに対して挑戦するという根性がなくて、なんで君た

ちは政治家の道を選んだのだ、と私は彼らを批判しています。

12年は、政治は動くと思います。私は増税の問題はそう簡単にはいかないと思います。今の不況をそのままにしておいて、税金だけがばつと取ろうというようなことは通るわけではないし、全国においてほうはいとして起こっているTPP反対運動も無視できないと思います。それから、災害の問題。国土が弱体化していることについて、なんとかしなければいけないという声が強まっています。

最近、自由民主党の中にできた国土強靱化総合調査会という組織は注目し値するものです。これが11年11月の初めから猛烈なピッチで動き出しています。そして、昔からの自民党支持者

だけではなく、今のまま国土を放置したら日本は危ないという意識を持つ新しい論客が登場しました。

藤井聡さんという京大の先生が今、スターになっていますが、こういう人たちを含めて多くの優秀な専門家が自民党に集まってきています。おそらく自民党の中で中央突破するでしょう。先頭に立っているのが二階俊博さんです。

多くの優秀な人を集めて議論して、国土を根本的に良くする道を総合的に研究しようとしています。ここでつくられたものが次の総選挙の、いわば自民党の事実上のマニフェストになるという方向に動いているように、私には思えます。自民党もやっと背中が火がついたという感じですね。

民主党もそれを見て動き出しました。つまり、

公共事業に背を向けて公共事業は悪だという行き方を終わらせない限りは、防災に民主党は責任を持ってないと。そういう新しい芽生えが出ています。自民党のほうは強力なメンバーを集めてやっていますからぐいぐい押しまわると思うのですが、民主党のほうはまだ弱々しい若いメンバーが中心です。これからです。

ただし、これは重要な一歩です。景気対策をやり、経済を成長させる政策をとり、そして国土を整備するための必要な社会資本の整備に着手し、失業問題もその中で解決していくという道に向かつての一步だと思えます。この動きをテコにして、次の総選挙の前に新しい芽を育ててみたいとも思っています。

新年がどうなるかということについて、6割

ぐらいの確率で総選挙があるのではないかと、今は思います。4割ぐらいは先に延ばす力が働くのではないかと。もし総選挙ができなければ、野田首相、谷垣総裁とも12年には交代すると私は見えています。世界中の指導者の交代と流れを一にして日本でも指導者交代が起こるだろうと思います。そして新しいリーダーのもとで総選挙を行うことになるでしょう。2012年の末頃になると思います。

時間一杯まで話してしまいました。以上をもって私のお話を終わります。ご静聴どうもありがとうございます。ありがとうございました。(拍手)

**会員** 橋下大阪市長の出席ですけれども、今後、全国に広がるような雰囲気もあるんですが、

コメントをいただきたいと思えます。

**森田** 結論的に言うと、今、国会議員がみな欲しいのは「風」です。選挙はもっぱら風頼みです。民主党の会合でも、自民党の会合でも、「風」を吹かしてほしいと。みんな「風」を欲しがっています。

今「風」を起こしている竜巻は、橋下竜巻です。これにあやかりたいということで、今や先を争って橋下徹氏へのごますり、ひれ伏し。これは力になりますね。政治家たちのこの卑しい心が彼を英雄にしているわけです。(笑)ですから、これはどんどん広がって、ますますいい気になってのさばっていくと思います。みんなの党の渡辺喜美氏と一緒にいるでしょう。その他の小政党も巻き込んで第三極に向かつて進む

のではないのでしょうか。

そして、みんながひれ伏しているうちに乗っ取られてしまうという危険性はあると思います。私は4年間、橋下さんを研究してきました、彼に日本を預けたとき日本は本当におしまになる、危険なことだと思っています。結論だけ言って申し訳ありませんが、そんな感想を持っています。

**浅野** 関西のテレビ局では橋下さんについての意見を森田さんには求めないそうです。今みたいな話をされたら大変ですから。

**会員** 自民党では石原さんのお話が出たんですけれども、対抗馬として挙げられた石破さんについてはいかがでしょうか。

**森田** 石破さんは非常に能力のある人です。

『新公共事業必要論』（日本評論社、2008）  
 『脱アメリカで日本は必ず甦る』（日本文芸社、2008）



主な著書

1932年伊東市生まれ。  
 1958年東京大学工学部卒業。1964年日本評論社入社。『経済セミナー』編集長を経て、1973年から政治評論家。

講師紹介

『小泉政治全面批判』（日本評論社、2007）  
 『自民党の終焉』（角川SSコミュニケーションズ、2007）  
 『アメリカに使い捨てられる日本』（日本文芸社、2007）  
 『小沢一郎入門』（三笠・知的生き方文庫、2006）

街頭演説を聞いていたんですが、すごいですね。「国民の皆さん、申し訳ありません。自由民主党政調会長の石破です。ごめんなさい。あんなひどい政権を成立させたのはわれわれの責任です。ごめんなさい」と。結構、説得力があるんです。（笑）「ごめんなさい」で相手を悪者にしちゃうわけですから、頭のいい人だなと思えますね。（笑）

ですが、この人も情が薄いです。長幼の序がありません。ですから、富士山ですね。近くに行くと汚いのが目立つ。（笑）遠くから見ると美しい。富士山型の人が政界では主流を占めておりますけれども、その代表的な人物の一人だと思います。彼がもし情を持つことができれば石原に勝つことはできるんじゃないでしょうか。

しかし、今、本当の支持者が少ないように思います。

会員 いちばんヒットラーに近いような人は誰でしょうか。

森田 橋下徹です。（笑）これはすごいです。演説を聞いたたりしていると、ヒットラーのビデオを見ているような感じですよ。非常に近いと思います。

浅野 締めくくりの言葉は時間がないので今日ははしりませんが、今年は大震災での中止が2回あり、講演会はつごう41回開かせていただきました。新年は1月13日からまたお出掛けいただきたい。森田さん、どうもありがとうございます。（拍手）